

⑭ 関和知先生碑



表面上部には、関氏の肖像画（線画）が描かれ、下部に「頌徳」関和知先生とある。高さ241cm 幅最大85cm 裏面には下記の碑文が刻まれている。

関和知先生頌徳碑移建の辞

先生は明治三年十月十七日東浪見村綱田農八蔵氏の長男に生れ綱田小学校にて永野甚吉先生の薫育をうけさらに二宮本郷村芦網太田和齋の塾に入り鷗沢聡明飯高弥市の諸氏と共に漢籍経世の道を学ぶ先生の天稟の才能は早くも鋒鋦をあらわし時勢を達観して家督を弟の千三氏にゆずり自らは政治に志し千葉町に出で房総新聞の主筆となって民権擁護のため清新果断の筆陣を張り千葉県政の革新に挺身しなお向学の念やみがたく上京勉学の志かたく苦学力行東京専門学校に学び優秀な成績で卒業、大隈重信侯知遇をうけて米国に留学プリンストン大学に研鑽し学位を得て帰朝衆望により衆議院議員に当選七回高邁なる政見を发表普選の提唱者として国運の進展に寄与され数々の重責を担当し大正十三年陸軍政務次官の要職につきたるも大正十四年二月十八日病のため不帰の客となる当時朝野の名士先生の逝去を悼み千葉寺に胸像を建立して冥福を祈ったが胸像は大東亜戦に應召され台座石を残すのみとなった郷賢顕彰会は奇しくも千葉寺住職藤沢利恭師の厚意によってこれを茂原公園藻原寺境外に建立して英魂を迎えその面影をしのび事蹟を永遠に伝へんとすこの事業に御協賛下さった多数の方々の御厚意を心から感謝致します 記してその徳を称う

昭和三十三年三月二十五日

郷賢顕彰会 総務理事 高吉勤之助述ぶ

事務長 大和久義平録す

題字終戦内閣総理大臣 鈴木貴太郎夫人孝子刀自謹書

肖像 長柄町国府里出身 木島柳鳴画伯

一宮町 鎗田石材店刻